【きのこ図鑑】

毒きのこ編

写真提供／竹しんじ（「ドキッときのこ」http://dokitto.com/）

中毒事故が毎年発生。原因は約10種の毒きのこ

日本の毒きのこの種類は200以上と考えられ、そのうち、食中毒を起こすことが多いのは約10種類といわれています。中毒事故は毎年発生していて、「ツキヨタケ」「ニガクリタケ」「カキシメジ」などによる中毒例が多く、これらを食べるとおう吐、腹痛や下痢を伴う消化器系の中毒症状が起こります。中には致死性の猛毒を持つものもあり、死亡事故の多くは、「ドクツルタケ」に代表されるテングタケ類によるものです。

毒きのことはいえ、外見が食用のきのこと似ているものもあるので、きのこ狩りなどの際は厳重な注意が必要です。食用のきのこかどうか判別できない場合は、採取せず、決して食べないようにしましょう。

また、迷信のような判別法や毒抜き法を信じるのも非常に危険です。「柄が縦に裂けるきのこは食べられる」「毒きのこは鮮やかで毒々しい色をしている」「塩漬けにすれば、どんなきのこでも食べられる」などの言い伝えは、いずれも誤りです。きのこの特徴を知り、分からないときは、きのこアドバイザーなどの専門家からアドバイスを受けることが重要です。

テングタケ

初夏から秋にかけて広葉樹林の地上に発生。茶色のカサに白いいぼが点在するのが特徴だが、いぼは脱落しやすい。消化器系、神経系の中毒症状が出る。

オオワライタケ

幻覚作用を引き起こす神経系の毒があり、カサは黄金色～褐色。初夏から秋にかけて広葉樹の枯れ木などに発生する。

ベニテングタケ

夏から秋にマツなどの針葉樹林やシラカバなどの広葉樹林の地上に発生。大型で、タマゴタケ（P.10参照）と間違えやすいので特に注意。

ツキヨタケ

中毒事故多発!

秋にブナの枯れ木などに群生。カサは主に半円形で10～20㎝ほど。初めは黄褐色、後に紫褐色～暗褐色になる。猛毒で、ヒラタケやシイタケと間違えやすいので要注意。

ハナホウキタケ

夏から秋にかけて針葉樹林や広葉樹林の地上に発生。サーモンピンクのサンゴのような形状。消化器系の中毒が起こることがあるといわれる。

カキシメジ

秋にブナ、コナラなどの雑木林の地上に発生。カサは直径3～8㎝で、シイタケと間違えやすい。食べるとおう吐、下痢、腹痛などの中毒症状が起きる。

カエンタケ

触るな!危険

夏から秋にかけてブナなどの広葉樹林の地上に群生。毒性が強く、触っただけでも炎症が起きることがある。食べて死亡した例もある。

ニガクリタケ

ナラタケ（P.11参照）に似ているが、死亡例もあるほど猛毒。針葉樹や広葉樹の枯れ木、倒木などに群生し、通年発生する。

タマシロオニタケ

コレラのような症状が出るなど、死に至る猛毒を持つ中型のきのこ。カサには脱落しやすいいぼがあり、後に平らに開く。夏から秋にかけて広葉樹林などの地上に発生。

オオシロカラカサタケ

初夏から秋にかけて発生する大型の毒きのこで、肥沃な土壌を好む。カサは白い饅頭形で、表皮が裂けて褐色のウロコ様になる。

フクロツルタケ

夏から秋にブナ科の広葉樹林の地上に発生。死に至る猛毒を持つ。白地に茶褐色のウロコ状のカサ、基部の大きな袋状のツボが特徴。

スギヒラタケ

夏から秋にスギ、マツなどの倒木や古株に群生。カサは白色で扇のような形状。脚の脱力、意識障害などを伴う急性脳症を引き起こす。

ヒトヨタケ

飲酒前後に食べるとアルコールの分解が阻害され、中毒症状が出るといわれる。カサは初めは卵形。春から秋に庭先や道端でも見られる。

ドクツルタケ

猛毒!

食べるとコレラのような症状が出た後、死に至る場合も。初夏から秋に針葉樹林や広葉樹林の地上に発生。カサの下にツバ、基部には袋状のツボの名残がある。